

【年度】平成25年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

【成果情報名】 年内収穫可能で良食味な「津之望（つののぞみ）」の果実特性

【要約】 「津之望」は浮皮の発生がなく減酸時期が12月中旬と早い。また、安定して連年結実するため比較的栽培が容易で良食味なことから年内収穫可能なカンキツ品種として有望である。

【キーワード】 「津之望」、年内収穫

【担当機関名】 果樹試験場 栽培部

【連絡先】 0737-52-4320

【専門分野】 果樹

【分類】 普及

【背景・ねらい】

中晩性カンキツである「せとか」や「はるみ」は食味がよく県内で広く栽培されているが、年によって凍害を受けることや、隔年結果による栽培の困難さから、比較的栽培が容易で年内に収穫が可能なカンキツ品種が求められている。そこで、（独）農研機構果樹研究所で「清見」に「アンコール」を交配し育成され、平成23年に品種登録された「津之望」について、本県での果実特性を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

1. 果実について、果形は扁球形、果実重は160～190g、浮皮の発生はほとんど見られない（図1）。剥皮性は中、種子数は少ないので食べやすい。ただし周囲に花粉が多い品種を混植すると種子数は増加する（表1）。
2. 果実肥大は10月頃から緩慢になり11月中旬には70mmに達する（図2）。果実品質は12月中下旬には糖度12～13度、クエン酸含量は1%以下になる（表2）。果皮障害の発生はほとんど見られない。
3. 樹勢は中で、樹姿は開心自然形になる。夏秋梢に長いトゲが発生する場合があるが、着果枝付近に発生するトゲは5mm以下の短いものとなる。隔年結果性は低い。そうか病には強く、かいよう病に対しては中程度の抵抗性がある（データ略）。

【成果の活用面・留意点】

1. 樹勢は親品種である「清見」よりやや弱く、「せとか」と同程度と考えられるため、植栽後の幼木には定期的なかん水、芽かきおよび施肥を行い樹冠拡大に努める。
2. 結実性が良好なため、着果過多樹は荒摘果重点の管理を行う。
3. 収穫が遅れ1月まで着果させると、果梗部にクラッキングや過熟症状が発生する場合があるので、適期収穫に努める。
4. 果樹試験場（有田郡有田川町奥）における栽培試験の結果である。

[具体的データ]

表1 「津之望」の果実特性

調査日	果皮色	果形	果実重 (g)	果肉歩 合(%)	剥皮性	種子数		浮皮	裂果	す上がり	糖酸比
						完全	不完全				
2013.12.13	鮮橙	扁球形	176	81.5	中	8.2	11.2	無	無	無	16.4
2012.12.21	鮮橙	扁球形	129	79.8	中	-	-	無	無	無	13.6
2008.12.19	鮮橙	扁球形	187	77.2	中	6.8	10.5	無	無	無	15.3
2007.12.20	鮮橙	扁球形	165	77.9	中	9.6	11.8	無	少	無	16.6

注) 2007～2008年調査は系統適応性検定試験の結果から抜粋
剥皮性: 易:手で容易に剥ける、中:中間、難:手で剥くのは困難



図1 「津之望」の果実

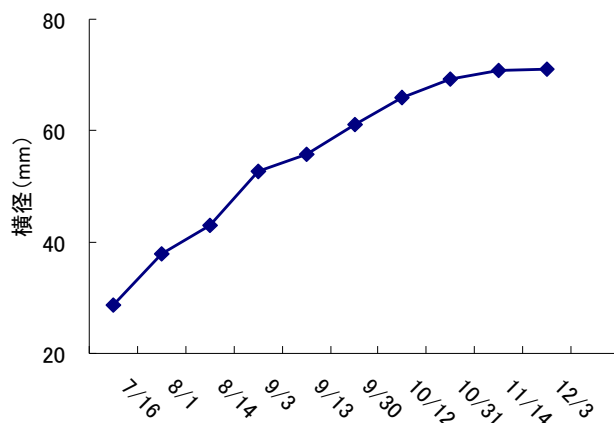


図2 「津之望」の果実横径の推移
(2013年 n=20)

表2 「津之望」果実の糖度、クエン酸含量の推移 (和果試 2012～13年)

		10/16	11/1	11/15	11/29	12/13	1/17
2013年	糖度(%)	10.4	10.7	11.4	12.3	12.6	13.0
	クエン酸(%)	1.44	1.25	1.06	1.03	0.78	0.72
		10/12	11/1	11/15	12/1	12/15	1/21
2012年	糖度(%)	9.3	11.2	11.9	12.7	13.5	13.7
	クエン酸(%)	1.68	1.29	1.17	0.98	1.00	0.97

[その他]

研究課題名: カンキツ新品種の育成 (カンキツ及びビワの系統適応性検定試験)

予算区分: 国庫、県単

研究期間: 平成13～25年

研究担当者: 田嶋皓、中地克之

発表論文等: なし